

『別冊整形外科』No. 78 「骨粗鬆症と骨粗鬆症関連骨折に対する診断と治療」

超高齢社会を迎えたわが国でもようやく大腿骨近位部骨折の増加が頭打ちになりつつあるようですが、骨粗鬆症の克服はいまだ重要課題です。また、疾患概念としてのフレイルやロコモティブシンドロームが整理されつつある一方で、サルコペニアに加えて最近ではオステオサルコペニアという考え方も提唱されています。また、骨粗鬆症リエゾンサービスをはじめとした、地域での骨粗鬆症対策も活発化しています。

薬物治療も、骨形成促進作用を有するテリパラチドに加え、デノスマブ、ロモソズマブなどの抗体薬が新たに上市され、多様な薬剤が利用できるようになりましたし、ビタミンDに関しては筋組織への作用も話題です。脆弱性骨折に対する治療法も大きく変わりました。橈骨遠位端骨折に対しては手術的治療が標準になり、脊椎椎体骨折では椎体形成術に加えて経皮的あるいは小切開の低侵襲固定手術が進歩しました。姿勢異常を呈した場合には椎体置換や骨切り術も適応されていますが、それらの成績を再評価する時期であると考えます。

本誌において骨粗鬆症を扱うのは2011年以来8年ぶりとなります。この間のこうした骨粗鬆症および関連骨折の病態の解明と診断方法の進歩、また、薬物治療の工夫、手術的治療の適応に対する検討や成績、リエゾンサービスの効果などについて広く論文を募集いたします。ふるってご応募ください。

募集テーマ

I. 総論

1. 骨粗鬆症の病態

- 1) 概念・疫学
オステオサルコペニア
ロコモ、フレイル
診療ガイドライン
- 2) 基礎研究
- 3) バイオメカニクス(FEM など)
- 4) 妊娠・授乳関連骨粗鬆症
- 5) 女性アスリート骨粗鬆症
- 6) ステロイド性骨粗鬆症
- 7) 癌関連

2. 検査、診断

- 1) DXA
体組成測定
全身測定と局所測定
- 2) 画像診断(CT, 姿勢, 形態)
- 3) 血液検査, バイオマーカー
- 4) 検診
- 5) その他

3. 骨粗鬆症と疼痛

- 1) 基礎研究
- 2) 病態
- 3) 治療, 対策

4. 他領域診療と骨粗鬆症

- 1) 骨粗鬆症患者におけるリハビリテーション実施時の留意点
- 2) その他

II. 薬物治療

1. ビスホスホネート

- 1) 休薬の課題
- 2) 非定型骨折
- 3) 顎骨壊死
- 4) コンプライアンス対策

2. テリパラチド

- 1) 副作用対策

3. ビタミンD

- 1) サルコペニア

2) CKD 対策

4. SERM

- 1) 投与対象
- 2) 血栓症例

5. 新規抗体薬

- 1) デノスマブ
- 2) ロモソズマブ

6. その他の薬剤

- 1) ビタミンKの役割
- 2) カルシウムの要否
- 3) エルシトニンの役割

7. 臨床における推奨投与

- 1) 併用パターン
- 2) 副作用対策

III. 栄養と運動

1. 食事
2. 運動
3. サプリメント

IV. 保存的治療および手術的治療

1. 脊椎骨折の診断と保存的治療
 - 1) 診断と評価
 - 2) 矢状面アライメントの評価
 - 3) コルセット治療の効果と妥当性
 - 4) その他
2. 脊椎骨折に対する手術的治療
 - 1) 椎体形成術の適応と介入時期
 - 2) PPSの使用法と椎体形成術との併用
 - 3) 偽関節に対する治療戦略
 - 4) 姿勢異常に対する手術的治療の成績と課題
 - 5) DISH骨折に対する治療戦略
 - 6) その他
3. 骨盤骨折の診断と治療
 - 1) 不顕性骨折の診断と治療
 - 2) 手術的治療の必要な症例
 - 3) その他

4. 上肢の脆弱性骨折

- 1) 上腕骨近位端骨折に対する治療戦略
- 2) リバース型人工肩関節の適応と成績
- 3) 橈骨遠位端骨折に対する治療戦略
- 4) 橈骨遠位端骨折に対する手術的治療の成績と課題
- 5) 肘関節周囲骨折
- 6) その他

5. 下肢の脆弱性骨折

- 1) 大腿骨近位部骨折の成績と課題
- 2) 非定型大腿骨骨折の病態と治療
- 3) 大腿骨遠位部骨折の成績と課題
- 4) 人工関節周囲骨折の治療戦略
- 5) 足関節および足骨折の治療
- 6) その他
6. 骨折連鎖, 続発性骨折防止対策
 - 1) 具体的な対策と課題
 - 2) ADL, QOLの維持方法
 - 3) ステロイド性骨粗鬆症への対策
 - 4) その他
7. 超高齢者に対する手術的治療
 - 1) 100歳以上
 - 2) アウトカムと生命予後
 - 3) その他

V. 治療システム

1. 大腿骨近位部骨折に対する病院内システム
2. 骨粗鬆症リエゾンサービス
3. 病病, 病診連携
4. 一次予防と二次予防

VI. その他

『整形外科』編集委員会

*

*

*

ご応募くださる方は、タイトルおよび要旨(1,000字以内)を、2020年2月末日までに下記『整形外科』編集室・『別冊整形外科』係宛にお送りください(E-mailでも受け付けます)。2020年3月末日までに編集委員会で採否を決めさせていただきます。その後ご連絡いたします。なお、ご執筆をお願いする場合の原稿締め切りは採用決定から2ヵ月後(2020年5月末日)、発行は2020年10月予定となります。

送付先: ☎ 113-8410 東京都文京区本郷三丁目42番6号

株式会社南江堂 『整形外科』編集室・『別冊整形外科』係

(TEL 03-3811-7619 / FAX 03-3811-8660 / E-mail: pub-jo@nankodo.co.jp)